

鹿児島市及び連携中枢都市圏3市の市民活動団体のご紹介



天文館から車で20分ほどの吉野エリア。住宅街のイメージだが、一本、道を外れると、そこには視界いっぱいに広がる自然がある。そこをフィールドにしているのが「かごしま森のようちえん」だ。ここには園舎はない。あえて言えば、フィールド全てが園舎だ。園児たちは毎日森の中へ入って、自然の中で生き物や友だちと過ごしている。そこに込められた想いとは。園を運営している市川雪絵（いちかわ・ゆきえ）さんに話を聞いた。

質の高い自然体験を日常化する

かごしま森のようちえんは、都市部に残る自然をフィールドとして自然体験や環境教育を提供しています。幼児や小中学生が登録していて、年齢に応じた様々なクラスが設定されています。毎日通っている幼児にとっては、自然や森そのものが幼稚園。小中学生は、週末を中心に月一度、自然体験や宿泊キャンプをしています。

子どもたちは、雨の日も風の日も森の中で仲間とともに過ごしながら、生きものの息吹や自然の変化を感じ、たくさんの体験や発見を仲間と共有しています。毎日短い時間でも質の高い自然体験が日常的になると、豊かな感性としなやかさや優しさが育っていきます。幼児よりも更に小さなベビーや、遠くて毎日通えない方向けには、月に1~2回、ゆったりと親子で自然体験を満喫できる親子ベビークラスも設定されています。

自然の醍醐味を逃さないように、大人ができることを意識し続ける

前職は、鹿児島県の環境教育施設の運営と企画をしていました。室内で展示物やワークショップをして体験的に環境問題を学ぶ場でした。当時、来館する小学生と接して気になったのは、子どもは色々なことを知っているけれど、実体験が少ないということ。例えば、カエルの生体は知っているけれど、本物を見た経験がなかったり、いざ目の前に見せてもなかなか触れない。命や環境問題に対する、リアリティや実感がありません。その実情を目の当たりするなかで、もっと小さい年齢からの、野外での「生（ホンモノ）」の体験が必要だという思いに至り、森のようちえんを始めることになりました。

フィールドは「自然」なので、良くも悪くもこちらが予定している通りに物事は進みません。急に生きものが現れたり、子どもたちが何かを発見をしたり、自然ならではの醍醐味を逃さないように、むしろそれを活かすように、大人ができることは何かを常に意識しています。また、私たちの想像を遥かに超えてくるのが自然です。でも、それが自然だということを実感してもらいながら、安全にかつ継続して体験してもらうことをとても大事にしています。

様々な切り口で子どもたちの感覚や個性に応える

かごしま森のようちえんには、年齢や経験を問わず、多様な人材が集まっています。女性が多いですが、実は保育士ばかりではありません。自然体験の技術に優れていたり、生態系の専門知識を持っていたり、みんな持っている専門スキルはバラバラです。ですが、自然というフィールドを最大限活用するために、同じ場面でもそれぞれのスタッフが様々な切り口で子どもたちの感覚や個性に対応できることが強みです。子どもたちの感性が働いた瞬間を学びにするために、スタッフにも感覚や感性を最大限発揮してもらうことを求めますし、その瞬間の発想（瞬発力）も必要です。だからこそ自然の中で起こりうることに意味づけができ、意義深い学びの場になっています。

自然と共生する様なマインドやライフスタイルを

ここの活動は種まきだと思っています。一つ目は、今いる子どもたちが10年後20年後に、自然と共生するようなマインドやライフスタイルになっていること。二つ目は、ここをケーススタディとして、様々な幼児教育や自然教育のやり方としていろんな形で社会に広がっていくこと。最終的にはこの場所が無くなっても、自然体験や環境教育の機会が得られることが、私たちとしても一番目指したいところですね。

その意味で、全国の大半の森のようちえんが、幼児教育の無償化の対象外になっていることは、大きな課題だと思っています。利用者の方々の負担によって、ようやくこの教育が成り立っていることに、何より心苦しさを感じています。森のようちえんの教育の価値や意義は理解されていても、教育の選択肢の一つとして市民権を得られていない証です。

ここは「園舎がない」ことが特徴の一つですが、制度としてはそこが足かせになっているというジレンマ。幼保無償化という制度がスタートした今こそ、幼児教育とは何を指すものなのか、その本質の議論を地域や社会としていきたいですね。

かごしま森のようちえん 団体概要

<活動内容>

- ・森のようちえんの運営
- ・森のようちえん体系化作業
- ・学生向け講座(講義&OJT)の開講(2年4月～)

<課題への取り組み>

幼保無償化制度に合わせるのではなく、森のようちえんが大事にしていることにはこだわっていききたいというのが本音です。

森を保全したり残すことには、コストと手間がかかります。その理由と必要性こそ、一番伝えていきたい部分。体験を通じて共感の輪(マインド)を広げていきたいです。

<今後の展望>

大学との共同研究による森のようちえんの発展事業や大学生を対象とした次世代育成教育事業を展開します。市街地の大学演習林を活用し、森のようちえんの再現を試行するほか、森のようちえん×〇〇学部、森のようちえん×〇〇研究といった、色々な学部との連携の中で横断的に研究者や学生と接点をつくり、森のようちえんという新しい教育スタイルについて、学術的にまたより科学的なアプローチを試み、その可能性について幅広く追究していきます。

- ▷名称：NPO法人かごしま子どもと自然研究所
(かごしま森のようちえん)
- ▷代表者名：理事長 岩田治郎
- ▷会員数：40ファミリー (150名)
- ▷連絡先：(TEL) 099-801-3704
(MAIL) morino-youchien@sge.bbq.jp

